

受賞を契機に新たに取り組んでいること

一応のルールと組織は出来ているが、住民の世代交代、他地区からの転入者が増加する中で、まちの環境保全に対する意識のばらつき、不足が顕在化するようになってきています。そのため、ルールの教宣、普及、街づくりに対する協働意識の啓発、街づくり活動への参加の呼びかけなどを通して「故郷意識」の醸成が一番重要との認識を共有し、11月の受賞以来5回にわたるアセス委員会で街づくりに役立つ活動方法、物などについて種々アイデアを出し検討をした結果下記の4つのテーマに取り組む方向を決めて活動を始めました。

	活動の内容	主旨、目的
1	受賞記念パスネットの作成	住民に購入、使用を呼びかけ受賞を共有して貰い、街づくりに対する協働意識を啓発する
2	自治会館敷地内シンボルゾーン整備	ハロウィン、Xmasの集い等若い親達の参加意識を喚起するシンボルをつくる
3	ユリノ木通り美化推進、保全	ユリノ木の保存活動を推進するための研究と日常活動
4	街並みの修景計画の研究とまとめ	道路沿いの緑化や遊歩道の舗装整備案の作成

4つのテーマを選んだ理由と取り組み

1. 受賞記念パスネットの作成

(目的)

パスネットの購入、使用を呼びかけることを通して、受賞を共有してもらおうと共に、自分の住む街が誇れる街であることを再認識してもらって更なる街づくり活動に対する参加意識を喚起してもらおうきっかけとなればと考えました。



受賞記念パスネット

(取り組み)

東急電鉄と何回も打ち合わせを持って別紙デザイン(1000円券)をまとめ、回覧チラシで住民に作成主旨をPR、購入希望枚数を募集し、作成枚数を検討しました。希望枚数1500枚と予備も含めて1800枚の作成を決定して発注、5月末頃納入予定です。アセス委員会は100枚を保有し、今後の街づくり活動活性化のために有用に活用していきます。

2. シンボルゾーンの整備

(目的)

街の中心にある自治会館敷地角に受賞記念植樹のシンボルゾーンを設け、子供のいる若い親達に街づくりに対する関心を喚起してもらうためのきっかけを提供する計画です。

(取り組み)

昨年暮れの子供たちを対象としたハロウィン行事が盛況であったことにヒントを得て、5メートル位のもみの木を植樹しクリスマスに子供たちと飾り付けをすることで世代の若い親達の参加を得て街づくりへの関心を持ってもらえればと期待をしています。17年度はアイデアを示し造園業者から見積もりを提出して貰いました。

3. ユリの木通りの美化推進、保全

(目的)

パスネットデザインにも取り上げたユリの木通りは街の代表的通りだが大木化し、樹幹に空洞が出来て台風時倒木の恐れで既に10数本が伐採されたままになっています。ユリノ木の保全活動を活発化してユリノ木通りの景観を維持し未来に継承しようと考えました。

(取り組み)

保全する方法を探るため、昨年12月に大阪から日本樹木保護協会代表の山本樹木医をお呼びして研究会を開催して、問題点と今後の取り組みに有意義な知見を教授いただきました。今後の活動方法を模索するためワーキンググループを発足させて調査、研究に着手しました。

4. 修景計画のまとめ

(目的)

当地区は、開発以来40年余になるが住宅個々のデザインはばらばらではあるものの、緑の多い街で静かなゆとりある環境を建築協定のもとで維持してきました。

近年、相続による世代交代、地価高騰による土地細分化などで個人敷地内の緑が減ってきています。

また開発時にはバリアフリーの意識が希薄であったので、歩行者専用道路の各所に階段、段差があり、路面も凹凸の出やすい平板ブロック敷きです。

これらを将来どの方向へ持っていくべきかというマスタープランを持つべきと考え、今後都市計画コンサルタント、ランドスケープデザイナーなどの協力を得て修景計画をとりまとめていく予定です。

また、当初は道路境界には生垣やネットフェンスを設置するのが一般的でしたが、近年は高い塀を作る事例が多く街並みに圧迫感を与えるようになっていきます。

こうした景観を修景する方法を見出すことが出来るか研究するものです。

(取り組み)

活動のきっかけを得るために、昨年12月に関東学院大学工学部藤本教授をお呼びして(研究室生同道)当地区をモデルとした同教室学生の修景計画試案を紹介いただくと共に、他地区の実施具定例などを紹介いただきました。

既成の街で修景計画を実現にこぎつけるには種々の問題がありますが、なにか突破口になるものを掴むための調査、研究をすることにワーキンググループを立ち上げることにしました。

5. 調査検討経費の用途(平成17年度分)

- ①パスネット
アセス委員会ストック分
- ②シンボルゾーン
記念植樹もみの木高5m
周辺造園工事
- ③ユリの木通り
樹木医講演謝礼
- ④修景計画
藤本教授講演謝礼
コーディネーター等経費

近い将来取り組むべき課題

各項目の中でも述べていますが、良い環境保持のためには地区計画と自主協定ガイドラインを守る住民意識の定着、また外部から入ってくる新住民や業者へのPRがアセス委員会の最大の役目と考えています。

その為に自治会と協力して日常の街の美化、清掃、緑化推進などを、また時には多数の住民が参加できるイベントを企画して「街なみを共有資産と意識し、街に住んでいる意識」を抱いてもらえるような活動を目指します。

自主協定ガイドラインをもっとわかりやすく、ビジュアル化して具体的に活用しやすい内容に改訂する努力もしたいと考えています。

これらの活動は行政と連携するだけでなく、街づくりに役立つ新しい法律などが用意される場合には、これを積極的に活用して活動してまいります。